

2018年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	食産業学群
学群(学部)長名	西川正純

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	継続：後期は授業評価の回答方法が変わったこと、評価時期が遅れたこともあり、回答率が数%から20%と前年に比べ大きく減少した。
	理由	各教員に最終回講義時で授業評価実施の周知をお願いしたが、新システムの開発遅延から、旧システムでの評価となり、しかも実施時期が3月20日からと春休み期間中の実施になったことが大きな原因である。
②	課題	継続：座学講義において、予習・復習を含め、授業時間外の学修時間が前年同様少ない。なお、実習科目については、毎回レポート課題が出ており、2時間以上の時間外学習を実施した例が多かった。
	理由	平成30年度後期は授業評価の回答数も少なく正確な判断はできないが、予習・復習が必要ないと考えている学生も多いこと、アルバイト等のため時間が取れないことが理由と考えられる。
③	課題	継続：専門基礎科目の履修者数が多い授業では、理解度の低い学生が存在しており、改善すべき重点課題であると考えられる。
	理由	平成30年度後期は授業評価の回答数も少なく正確な判断はできないが、予習・復習が行えていないことに加えて、履修者数が多い大講義室での講義が原因で理解度がより低くなっている可能性も考えられる。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	本課題については、新システムの開発状況による。
②	平成30年度後期は授業評価の回答数も少なく正確な判断はできないが、7月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図る。対策としては、履修者同士の教え合い、学び合うことで主体的で能動的な学びを実現できるLTD (Learning Through Discussion) やグループワークを取り入れること、事後学修を重点的に宿題や小レポート、小テスト、練習問題等の実施することで、授業外学修の習慣付けを実現する。
	平成30年度後期は授業評価の回答数も少なく正確な判断はできないが、7月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図る。対策としては、昨年前期に引き続き、双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、グループワーク、LTD (Learning Through Discussion)、ピアサポートの実施・活用を徹底させる。さらに、学修支援システムの利用を拡大し、コメントカードやレポート、事前学修(簡単な演習)のオンライン化等々、授業での不明点に対する解説なども含めて履修者全員と情報の共有化を図り学修の向上をお願いする。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

平成30年度後期は授業評価の回答数が大幅に減少したことから、コメント数も例年に比べかなり少なく、授業実施・授業改善の良い事例を取り上げることは難しかった。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

コメント数も例年に比べ少なく良い事例がほとんど出て来なかったことから学群(学部)・研究科内での共有化は難しいが、教育改善計画としては、昨年に引き続き、自主的な学習に期待してもなかなか取り組めない学生向けに、配布される資料の読み方、使い方について指導し、読んだかどうかの確認等を行い、さらに、双方向型授業、アクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会を学群・研究科の教務委員会で年度内にスケジュール化して実現する。